

## 平成 26 年度 第 2 回経済学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日 時：平成 26 年 6 月 28 日(土) 14：00～16：20

II. 場 所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者：林委員長，児島委員，中嶋委員，山崎委員，山田委員，渡邊委員  
井端事務局長，森下主幹

### IV. 資料

① 経済学教育におけるアクティブ・ラーニング事例研究開催要項(案)

② 経済学教育 FD 対話集会の内容案(林委員長)

③ 問題発見・解決型授業における効果的な ICT 活用の手法と事例(山田委員)

④ 電子書籍と YouTube を使った授業例(中嶋委員，④-1 反転授業紹介を含む)

⑤ 能動学習のための ICT 活用の手法と事例(大人教授業)(児島委員)

参考 1 「「学ぶ」から「できる」へ～経営系科目のアクティブ・ラーニング～」(論文)

参考 2 「アクティブ・ラーニングとはなにか」(論文)

その他 平成 26 年度委員会名簿，前回議事録

### V. 議事内容

#### 1. アクティブ・ラーニング事例研究の対話集会の進め方について

資料①のプログラム内容(対話集会の「具体案」)について検討を行った。最初に，資料③(山田委員)，経済学説史の事例(山崎委員)，資料④(中嶋委員)，資料④-1(中嶋委員による米国における反転授業の紹介)，資料⑤(児島委員)に基づいた説明があった。その後，意見開陳。主たる意見は以下の通り。

- 個別性の高い授業内容は，事例紹介として避けた方が良いのではないか。
- 授業タイプ，効果的な ICT 活用手法を踏まえた事例紹介内容とするのがいいのではないか。
- 偏差値の決して高くない学生を受け入れている大学・学部学生，成績下位の学生をアクティブ・ラーニングによって，学びのフィールドにどう導くか，どのように教育するかという視点が重要。
- 米国での反転授業は，モチベーションの高い学生用のツール。
- アクティブ・ラーニングや反転授業に関して「本当に教育効果があったのか」というデータがないのが実情。
- 成績下位の学生が，アクティブ・ラーニングによって成績が良くなったという事例を紹介してはどうか。
- YouTube は閲覧(学習)時間のデータが採れる。
- ICT を活用した事前学習を促す教育を行っており，知識を定着させる取り組み，関連付けさせる取り組みが行われている。ただし，大学院生がファシリテーターとしてネット上で活躍できる場を導入して，インタラクティブ性を強調する事例紹介としてはどうか。

以上の議論の結果，当日の話題提供者として中嶋委員と児島委員にお願いすることにな

った。これにともない、日程、演題等のプログラム内容を以下のように決定した。

【対話集会日時】平成26年10月11日（土）14：00～16：00

1. 開催趣旨説明とこれまでの研究の経緯（林委員長，10分）
2. 様々なアクティブ・ラーニングに関する取り組みの話題提供（進行：山崎委員，40分）
  - ① 電子書籍とYouTubeを用いた時間外学修の試み（中嶋委員，15分）
  - ② 大教室における学修支援システムを活用した基礎知識定着の試み（児島委員，15分）
  - ③ 「参加者による話題提供」（10分）
3. 意見交換（林委員長，50分）
4. 課題整理とまとめ（林委員長，5分）

なお、会場は、法政大学市ヶ谷キャンパス。

最後に事務局より参考資料①と②について紹介がなされた。

2. 対話集会に向けた今後の進め方について

対話集会の会場(法政大学)利用可否について、林委員長に確認いただき、最終的な開催日を決定することになった。また、案内文の作成、配布に関しては、事務局に一任することになった。また、話題提供の中嶋委員と児島委員には、A4用紙1枚のアブストラクトを作成いただくことになった。

以上